薬師寺出土の二彩陶塔

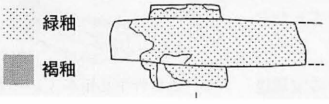
平城宮跡発掘調査部

近年，平城宮北方の瀬後谷遺跡で，緑釉陶塔破片が大量に出土した。当研究所が薬師寺境内で行なった発掘調査では二彩陶塔の破片が出土している。比較のためここに紹介する。破片は２点あり，１点は高欄，１点は基壇の破片である。

高欄は，1975年に調査した十字廊北方の調査区で，赤褐土面に掘り込まれた土壙より出土した。緑釉皿，漆器などが共伴したが，新しい遺物も含む。高さ2.4cmの斗束の上に，直径0.6cm，長さ3.4cmの架木がのる。架木は，小口面をとどめており，小口面にのみ褐釉が施され，それ以外の面には緑釉がよく残る。

基壇の破片は，1988年に調査した西面回廊の調査で，包含層から出土した。緑釉を主体とし，下面のごく一部に褐釉が施される。コーナー部分の破片で，地覆と束・羽目が残る。葛は剝離するが，復原高約６cmをはかる。

いずれも灰白色の精良な胎土で軟質。胎土・焼成とも一般の三彩・二彩陶器とよく似る。緑釉を主体とした二彩であるが，褐釉はごく一部に付着するのみである。また一部の破片のみの出土であり，三彩の可能性も考慮する必要がある。



高欄は同一個体とするとやや大きく，別個体の基壇に取り付く高欄と考えることもできる。

（杉山　洋）

高欄（上）・基壇（下）実大